

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100248		
法人名	有限会社 鈴の音		
事業所名	グループホーム宿の里		
所在地	山梨県甲府市右左口町805-6		
自己評価作成日	平成28年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな山の麓に立地し、遠景に南アルプス・八ヶ岳・茅ヶ岳が観え、眼下には甲府盆地と桃畑が一望できる環境です。建物はゆったりとした木造平屋建てで、吹き抜け・床暖房となっております。また、デイサービスが併設されているため、大きなイベントは合同でにぎやかに行っております。利用者本位のケアを忘れず、心の安定に努め心地より場所づくり、入居者同士の人間関係の構築を図り、生きる活力となるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

右左口の高台から眺める甲府盆地は、春は桃のピンクの絨毯に、秋は色鮮やかな色彩の中、青い空、鳥のさえずり等、一歩外に出ると四季折々の美しさが手にとる事が出来る環境で、利用者は生活を楽しんでいる。利用者の身体機能は低下している方が多いが、職員は仕事の心得8ヶ条の理念「思いやりを忘れずに」を日々の支援の中で実践して、利用者を感じる事が出来る。利用者の要望で「昔勤務していた会社の社長に会いたい」との言葉から数回の電話、手紙を重ねて社長さんが来所して面会が実現した。教会の牧師さんの月一回の継続来所や、毎年12月23日には大勢が来所しての楽器や唄の触れ合い等、継続支援の取り組みがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム宿の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の引継ぎの時など毎日ミーティング時にたびたび仕事の心得8か条の話をし、その中でも2の思いやりを忘れずに日々の活動に実践している。	仕事の心得8条を理念とし、朝のミーティング時に読みあげ職員間で共有している。特に「思いやりを忘れずに」を日頃、利用者に対しての支援や職員間でも大切に、よりよい人間関係を作り実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご家族や自治会長等に運営推進会議に参加していただき、話し合いの場や自治会行事には積極的に参加させていただいている河川清掃や回覧版が回ってくるときにちょっとお話、散歩をしている時に顔見知りになり声をかけて下さる。	自治会の組に入っているため、回覧板が回って来ている。正月には神社での互礼会への参加や、日常では河川清掃等の自治会の行事に利用者と一緒にいくこともある。地域の防災訓練に参加しているが、近年利用者で身体機能が低下している方が多いので、機会は少なくなってきた。また、地域の住民に利用者の顔を知ってもらうことで助けてもらうことも多々あり、大変助かっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の悩みを聴き、認知症という症状や対処法と一緒に考え、良い方向に行くように援助する。また来年3月には、笛南包括から「家族介護教室に参加しよう」という企画で認知症について理解を深めていくことを目的としたお話をすることになっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回活動状況やインシデントなどの報告、また地域の人のための活動、家族の思いなどを語っていただいている。	金曜日の午後開催していたが、他の施設職員も参加すべきとの指導で午前中開催したこともある。出来る限り違う他事業所の職員の参加を得て、今後の事業所での支援に役立てていきたいと思っている。また市議会委員の方が参加することで、事業所の問題(雪かき)等の支援を貰った。推進会議に参加出来ない家族には、会議録を送っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成26年の2月の大雪の時には、運営推進委員の時に参加して下さっている議長様から除雪の応援があり、とても助かったことがある。本施設を気にかけてくださることの喜びを感じた。	市より派遣された介護相談員が来所した際、看取りに入っている利用者の実情や、ケアサービスを伝えることで連携が出来るように繋げている。また担当者には事業所の実情、書類関係の指導等を仰いで協力関係を築くように努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は出るときは自動で入れるが、出るときはテンキーを押さないと出られないようになっていく。3点柵の方はいらっしやる。スピーチロックがあるときもあるが、その時は後で個別に注意する。あるいはすぐに管理者自身が手を貸し、スピーチロックにならないように気を付けている	利用者は玄関を出る際の鍵は自由ではないが、外に出たいと様子が見える時は、洗濯物干し、布団干しの際に一緒に外の庭に出るなど工夫をしている。暖かい天気の良い日には、車椅子を利用して利用者も外に出て日光浴をしている。今後自由に外に出ることが出来る環境に努めていきたいと、前向きな姿勢を持っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的な事案があれば、その都度、合同会議で話し合いを行い、虐待につながらないようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会もあるが、実際対象の方がいないあるいはいても活用までにはいたっていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まった時点で、家族または身元引受人となる方を交え、契約内容など心配や不安がないように、十分話し合いをし、理解を得ている。実際の細部についても話し合い疑問や要望も聞いている			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム宿の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当事務所の玄関にご意見箱を設置し、常に利用者・家族からの意見を聞くことができるようにしている。しかし、大半は面会などの際にご家族とお話しをして直接意見を聴くことが多い。月に1回の家族への手紙も職員からの目線で報告している。また課題があれば管理者へ電話や携帯でお話を聴き職員の話し合いの時に反映している	運営推進会議の際、家族から「何を食べているのか気になるので献立表を提出して欲しい」との要望があり、月1回の家族への手紙と一緒に送るようにしている。また、日頃の変化などは家族から職員に伝えられ、実践に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで話し合いをし、申し送りノートの活用や議事録を繰り返し確認できるようにしている。	ミーティングの際に利用者の支援方法、オムツの種類の変更等の意見・提案が出て、検討を行って共有している。勤務体制の変更の要望や、食事形態の提案なども出る。また日々の生活の中で、管理者は職員と同じ場面で利用者の支援を行なっているため、コミュニケーションはがとりやすい関係になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表であり、自ら入浴介助・食事介助・夜勤などするため職員が離しやすい環境にある。できる限り勤務希望を聞き入れるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一緒に仕事をするにより、技術を磨いてもらうように配慮している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県や甲府市等から案内される研修会にできる限り参加してもらう。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一緒に仕事をするにより、不安なことや要望をさりげなく聴き、関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	とにかくお話を聴き安心していただけるように話し合いを重ねる			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が安心して暮らせる環境づくりをし、必要に応じ訪問歯科・訪問マッサージ・床屋を導入している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人の役に立つ喜びを感じてもらえるように声掛けをし、できることを妨げない自立支援を心がけている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム宿の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を近くに感じていただけるよう、可能な限りご家族に協力をいただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会時には自室にて一緒に過ごし可能な限り、その方にとって楽しみや生きがいを断つことのないように配慮している。	利用者が家族と一緒に食事に出かける事もある。姪や甥、孫の面会もある。職員と買い物の際、昔の馴染みのスーパーで洋服や菓子等購入する様にしている。「以前の勤め先の社長さんに会いたい」との希望から本人が職員と手紙を数回書いて出し、社長さんが会いに来た。また週1回家族からの絵手紙、教会の牧師さんの月1回の来所等関係継続の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の片づけやおやつ作り、体操や散歩など一緒に時間を共有し、ともに支えあう環境づくりをしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても遠慮なく相談していただけるよう声掛けをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活に少しでも近づけるように努めている。	日々の暮らしの中で変化が起きた際、本人にとって何処でどの様に暮らすことが良いか、家族を交えて本人の希望のもと事業所で支援している。寝ている日、起きている日、笑う時、おしゃべりしている時等、表情と生活サイクルを見極めて、本人本位の暮らしの支援をしている。困難な場合は、表情や行動を理解して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い、その人らしい生活に少しでも近づけられるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力に応じて、掃除や茶碗ふきなど手伝っていただいている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスをおこなっており、その意見を短期目標の見直し時に取り入れ、その記録をもとに計画書の継続か変更を考える	利用者・家族からの要望を聞きながら、介護職員は記録等で共有してプランに添った介護を提供している。6か月前後で評価を行いサービス担当者会議で多くの意見を検討し、家族の意向を取り入れている。急変時にはかかりつけ医、本人、家族と検討して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の中でそれぞれの短期目標のチェックを行っている。また職員間の中で気づいたことなどを話し合い、共有できるように申し送りノートに記載し活用している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム宿の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望や家族の状況に応じて、退院や外出など必要な支援を行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	甲府市介護保険課・地域包括支援センターなどの推進協議会等への参加をはじめ、随時相談し、入所者の暮らしを支えているようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に訪問医療について説明し、要望があれば訪問診療で主治医に来所してもらい定期的に診てもらい。緊急時には、家族から要望があれば来ていただいている。インフルエンザ等も家族の要望で行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医対応の利用者もいる。日頃の様子はファクス通信で、血圧等を伝えている。多くの利用者は事業所の訪問医で定期的に月2回支援されている。訪問看護師対応者もいる。急変時には家族に伝えて医師と検討している。眼科、整形外科等の受診は家族対応となっているが、都合がつかない場合は職員対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報を看護師・管理者・医師(インターネットを使って)相談し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や看護師・医療ソーシャルワーカーと情報交換し、本人とご家族の支援するように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応・対策・終末期について、その状態になったとき主治医とともに家族との話し合いの中で、方針を決めていく。当事業所に常勤で医師や看護師がいないことについても説明し、その上で納得された場合に、書面にて同意をもらっている。	入居時、看取り対応が出来る事を伝えて同意書をもらっている。重度化した時点で、家族と主治医との話し合いで決定する。病院に行く場合は、救急車での対応をしている。事業所での場合は事業所出来る支援対応を、医師の指示で訪問看護師を利用して対応している。職員は共同認識を持って支援している。また主治医との連絡が充分取れているので、職員は看取り対応の支援が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設しているデイサービスの看護師が日中はいるので相談ののってもらっている。夜間は必要に応じ、管理者あるいは主治医に報告・カンファレンスで話し合いなどを持つ			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した防災訓練ということで夜勤者1人で火災・地震等を想定し計画・実践・見直しをしている。また甲府南消防署に依頼して防災訓練を行っている。	年間2回火災・地震を想定しての訓練を行っている。甲府南消防署が来所しての訓練時には、回覧板で組に報告してから消火器、通報訓練を行っている。また訓練の実施の写真を撮って職員間で共有し、次回の訓練に繋げている。	利用者の状態に合わせた避難方法を検討して、実践の訓練に繋げることが大切である。職員が体で得ることが出来るよう、訓練の回数を増やし、記録に残して職員間で共有する事を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、人格を尊重した声掛けをし、居室に入る際には、ノックするように心がけている。	年長者として敬意を払い、子供言葉等を使わない言葉がけで支援している。トイレの際ジェスチャーを使って支援する利用者もいるが、さり気ない誘導の声掛けに努めている。書類は事務所で管理されている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム宿の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように考える時間をおき、余裕を持って声掛けを行う。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床や食事など決まった時間での行動を強要することなくその時々に対応していく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者自身のこだわりを尊重し、趣向にあったものを預かったお小遣いから買わせていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、利用者・職員が一緒にテーブルで歓談し、食事を摂る。食後は口腔ケアしたのち、食器ふきなどを手伝っていただいている。	担当職員が1か月分の献立を、利用者の好みを聞いて作成している。週2回食材の買い出しに出かける際に、利用者も一緒に出かける時もある。食事は専門の職員が作っている。身体機能的に準備や食事、後片づけが出来る利用者は少ないが、器を拭く手伝い等できることに取り組んでいる。また、利用者の食事の一部介助、医師の指示で居室のベット上での全介助等行いながら、職員も一緒に食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者の状態に合わせて食べやすいように対応している。食事量・水分チェックを毎食後行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者は毎食後歯磨きをしている。また寝る前には、義歯を洗浄剤につけてもらう。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、誘導し失敗がないように声掛けをしている。個人の排尿回数や時間帯のチェックをし、その都度誘導している。	トイレにチェック表を置いて、利用者の身体機能の状態を把握して誘導の声掛けをしている。また布パンツでの生活をしている利用者も声掛けをしているが、自力でのトイレでの排泄を大切にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活にし、極力薬に頼らず、自然排泄ができるように運動や水分補給のチェックをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2回であるが、入浴拒否がある利用者は、無理に勧めず、時間をずらしたりして入浴していただく。	自分で入浴できない重度の利用者が多く、職員2名で支援している。褥瘡のある利用者は、褥瘡が治るまで毎日入浴をしている。入浴を拒む利用者には時間をずらしたり、言葉がけや対応を工夫して支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム宿の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の今までの生活習慣で就寝時間は、個々の対応としている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の飲んでいる薬が変わった場合は、申し送りに書き、介護記録も注視して書くように職員に伝えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に興味があり、何をしたいのかを観察しながら、レクリエーションに取り入れていく。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調が良ければ散歩などにもでかける。	重度化した利用者が多く、戸外に出る支援は天気の良い暖かい日に、車椅子で外に出て日光浴をするように努めている。庭から見渡す西方の雪を被った南アルプス、ハケ岳が手に取るように眺めることが出来る。春は桃の花の絨毯、秋は裏の林の紅葉と静かに過ぎる時を眺めることが出来る。普段行くことが出来ないような場所へは、家族の協力を得て訪れる支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活に少しでも近づけるように努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人に電話や手紙のやり取りができるように中に入りご本人が言いたいことを集約し伝える。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入って左手に広いフロアーがあり、四角に配置されたテーブルから、利用者全員の顔が見られるようになっている。台所からもフロアーが見渡せるようになっている。さりげなく利用者を見守れるようにしている。	共有空間のホールの四角に配置された中央に、クリスマスツリーが置かれており季節を感じることができる。季節の移り変わりを、職員が持参する生花で楽しんでいる。その他、大型テレビ、ソファ、寝たきり状態の利用者の為のベットがあり、窓は大きく戸外の四季を感じることが出来る。一面にある対面のキッチンからは暖かい匂いや音が聞こえ、静かに時が流れている。「美空ひばり」等の利用者の好む歌を流すこともある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にある程度自分の居心地の良い場所があったり、ゆったりとテレビを観ていたり会話を楽しませている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと、ご自身になじみの家具などを持っていただき、居心地のよい環境づくりに努めている。家族談笑の場所としている。	居室には冷蔵庫、テレビ、筆筒、木製のポータブルトイレ、ベット等、利用者の好みの物が置かれている。壁や筆筒の上には人形、カレンダー、造花、時計、家族や孫の写真、絵手紙等で、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。また清潔に生活できるよう、職員も心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前を表示している。			